

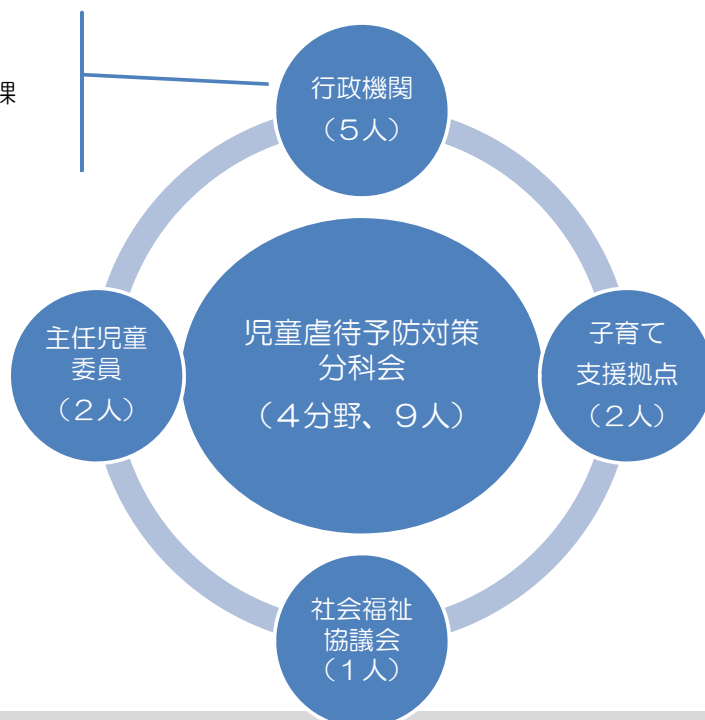
横浜市栄区セーフコミュニティ分野別分科会  
児童虐待予防対策分科会

座長 宮崎 良子



## 分科会の構成

●栄区こども家庭支援課



図表1 児童虐待予防対策分科会の構成

# 分科会設立・課題設定の背景

## ～少子化の進行～

- 横浜市および栄区の出生数は年々減少し、少子化が進んでいる

図表2 横浜市および栄区の出生数推移

	2012	2013	2014	2015	2016
栄区	1,001	957	874	864	821
横浜市	30,959	30,181	30,149	30,022	28,889

出典：第95回 横浜市統計書

図表3 参考：合計特殊出生率

	2011	2012	2013
栄区	1.30	1.36	1.35
横浜市	1.28	1.31	1.31

出典：横浜市健康福祉局



# 分科会設立・課題設定の背景

## ～核家族化の進行～

- 横浜市および栄区の1世帯当たりの人員は年々減少しており、核家族化が進んでいる

図表4 1世帯当たりの人員

	1995	2000	2005	2010	2015
栄区	2.89	2.71	2.60	2.46	2.37
横浜市	2.62	2.50	2.42	2.31	2.24

出典：「国勢調査」総務省統計局

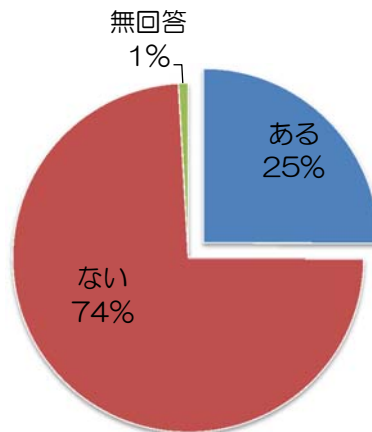


# 分科会設立・課題設定の背景

## ～子どもの世話をした経験の有無～

### □ 子どもの世話をした経験

子どもが生まれる前に赤ちゃんの世話をしたことがない人が約75%  
 ⇒経験がないことにより、出産前に子育てのイメージを持ちにくく、  
 出産後にも子育ての知識、技術を持ちにくい



図表5 子どもの世話をした経験の有無

出典：「横浜市子ども・子育て支援事業計画の策定に向けた利用ニーズ把握のための調査  
 (未就学児保護者・2013年度) N=31,374」



# 分科会設立・課題設定の背景

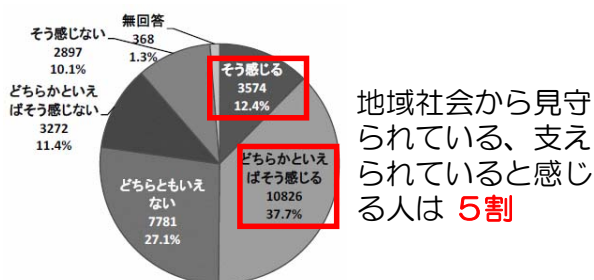
## ～地域とのつながりの希薄化・子育てに対する不安～

### □ 地域とのつながりの希薄化

⇒地域社会における見守り、相談  
 相手の不在がある（孤立化）

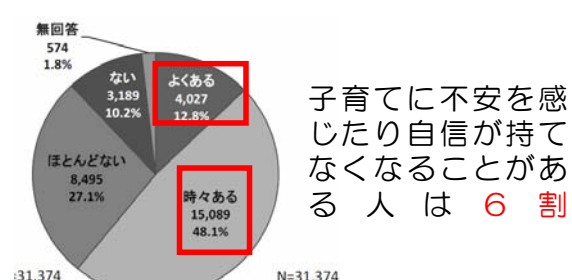
### □ 子育てに対する不安

⇒子育ての不安や自信のなさを感じ  
 ている母親が存在している



地域社会から見守  
 られている、支え  
 られていると感じ  
 ている人は **5割**

図表6 地域社会から見守られていると感じるか



子育てに不安を感じ  
 たり自信が持て  
 なくなることに  
 いる人は **6割**

図表7 子育てに不安を感じたり、  
 自信が持てなくなる  
 ことがあるか

「横浜市子ども・子育て支援事業計画の策定に向けた利用ニーズ把握のための調査 (未就学児保護者、2013年度) N=31,374」

# 分科会設立・課題設定の背景

## ～横浜市及び栄区の児童虐待相談対応状況～

- 横浜市および栄区の児童虐待相談対応件数は年々増加傾向にある

図表8 区役所における児童虐待対応件数

…児童虐待（疑いを含む）に係る通告・相談に対し、調査等の対応をした件数

	2011	2012	2013	2014	2015	2016
栄区	18	26	12	30	23	48
横浜市	605	752	868	1,016	1,578	2,131

出典：横浜市子ども青少年局



# 分科会設立・課題設定の背景

## ～横浜市及び栄区の児童虐待相談対応状況～

- 要保護児童数は横浜市では増加、栄区は横ばいの状態が続いている

図表9 要保護児童数

…保護者のいない児童又は保護者に監護させることが不相当であると認められた児童（虐待を受けている児童。保護者や家族状況の変化等により、虐待に発展する可能性が強く危惧されている児童。）

	2011	2012	2013	2014	2015	2016
栄区	104	95	93	124	95	96
横浜市	2,268	2,693	3,190	3,945	3,860	4,222

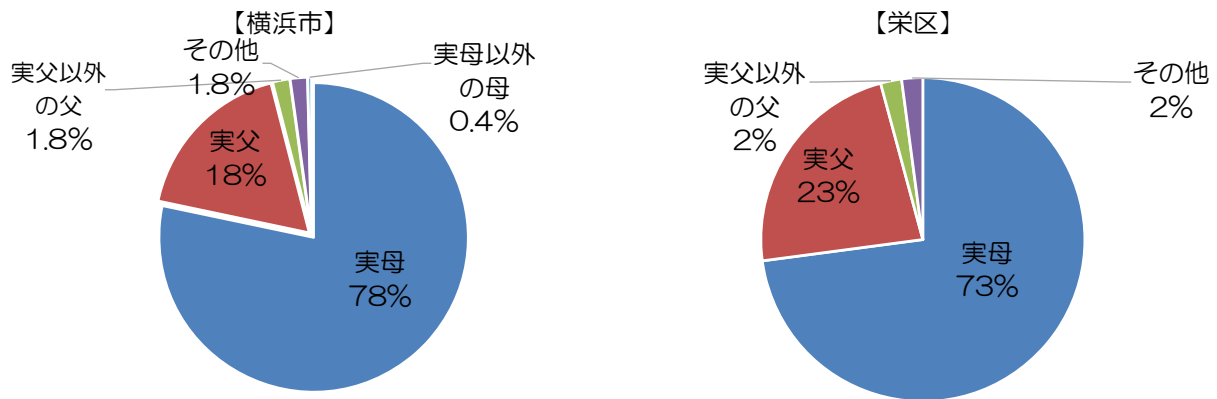
出典：横浜市子ども青少年局



# 分科会設立・課題設定の背景

## ～横浜市及び栄区の虐待者別割合～

- 虐待者は横浜市全体で実母が最も多く7割を超えている。次いで、実父が18%となっている。栄区でも実母が7割を占めている。  
⇒虐待のリスクを抱える養育者は母親が多い可能性



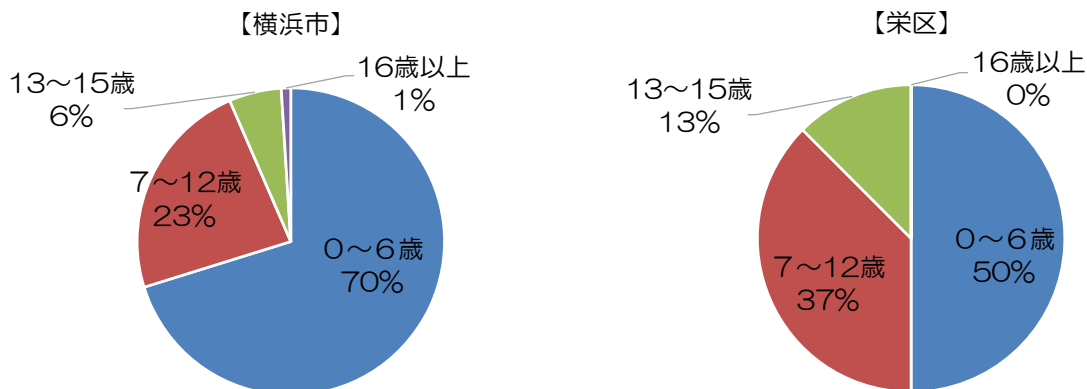
図表10 横浜市及び栄区の虐待者別割合  
(出典：横浜市こども青少年局 2016年度 N=2,131)



# 分科会設立・課題設定の背景

## ～横浜市及び栄区の虐待年齢別割合～

- 小学校入学前の子どもの合計は70%となっており、最も高い割合を占めている。栄区では区役所対応分だけをみると小学校入学前の子どもの合計が約半数となっている。  
⇒小学校入学前の乳幼児の養育者がリスクを抱えやすい可能性



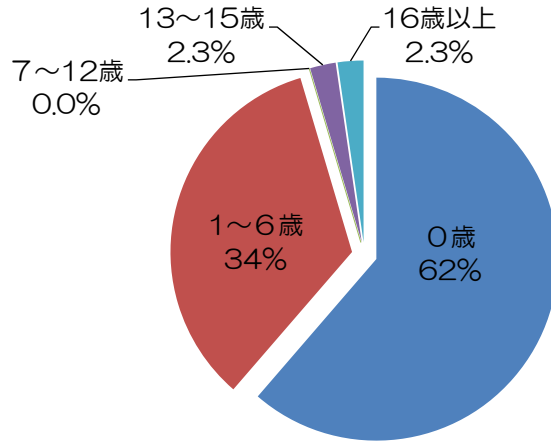
図表11 横浜市及び栄区の虐待年齢別割合  
(出典：横浜市こども青少年局 2016年度 N=2,131)



# 分科会設立・課題設定の背景

## ～全国の虐待死亡事例の状況～

- 厚生労働省のデータによると、心中以外の虐待死の子ども年齢では、0歳児が61.4%と最も多くなっている。  
⇒月齢が小さいほど虐待の影響は大きく、死亡事例になりやすい



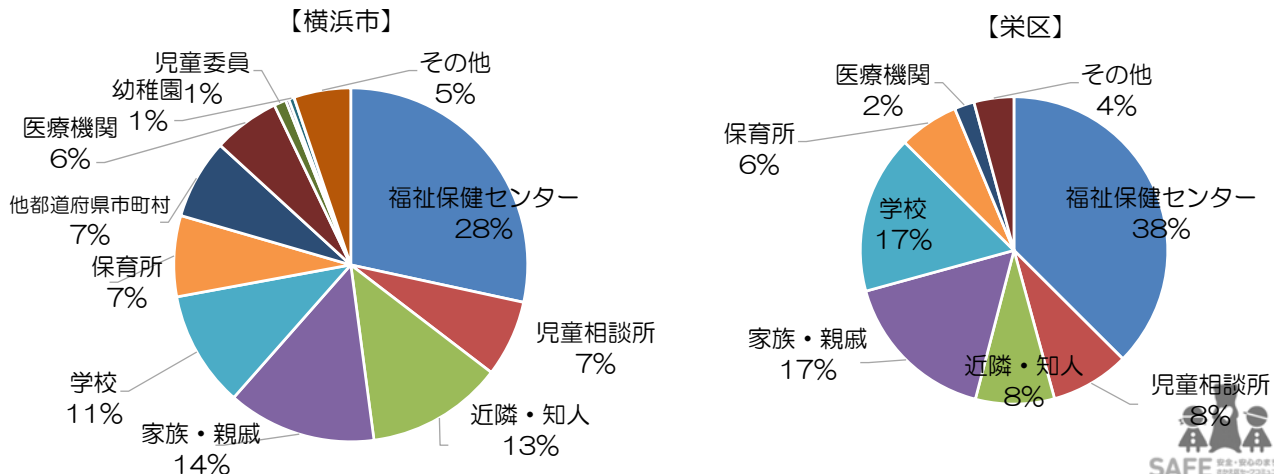
図表12 全国の虐待死亡事例の状況  
(出典：社会保障審議会児童部会児童虐待等要保護事例の検証に関する専門委員会「子ども虐待による死亡事件等の検証決壊等について(第12次報告)」より N=44)



# 分科会設立・課題設定の背景

## ～横浜市及び栄区の虐待把握経路別割合～

- 福祉保健センター内の業務から把握したものの割合が高くなっている。その他は児童相談所、家族・親戚等の様々な経路から把握している  
⇒多様な機関および地域住民が児童虐待の知識を持ち、虐待を理解し支援が必要な子どもや家庭を把握している



図表13 虐待把握経路別割合  
(出典：こども青少年局 2016年度 N=2,131)



## 分科会設立の背景①

### □子育てを取り巻く現状から・・・

- 少子化の進行（出生数の減少）【スライド3】  
子育てをする母親同士が交流する機会が減っている  
実生活のなかで乳幼児に接する機会が減っている
- 核家族化の進行（伝統的な大家族の減少）【スライド4】  
同居の祖母から母への育児の伝承や支援ができない(Nishimura, 1998)
- 子どもが生まれる前に赤ちゃんの世話をしたことがない人は約75%【スライド5】
- 養育者と地域社会とのつながりの希薄化→見守り・相談相手の不在【スライド6】
- 養育者の子育て不安は虐待的傾向に関連する (Yaegashi,2008)【スライド6】

子育てに自信をもてず、不安を感じる母親が多い

母親の子育てへの自信のなさや不安を解消する必要がある



13

## 分科会設立の背景②

### □児童虐待の現状から・・・

- 虐待者の7割が実母【スライド9】
- 被虐待児の割合は、小学校入学前の子どもが半数【スライド10】
- 虐待死（心中以外）の子どもの年齢は0歳児が約6割【スライド11】
- 虐待の把握経路は福祉保健センターの母子保健事業や福祉相談からの把握が約4割【スライド12】

児童虐待に至るリスクを抱える養育者が存在している

児童虐待のリスクを抱える養育者が早期に支援につながる必要がある



14



# 分科会の構成

□ 栄区の課題をより具体的な取組についての話し合いと実践を行うために

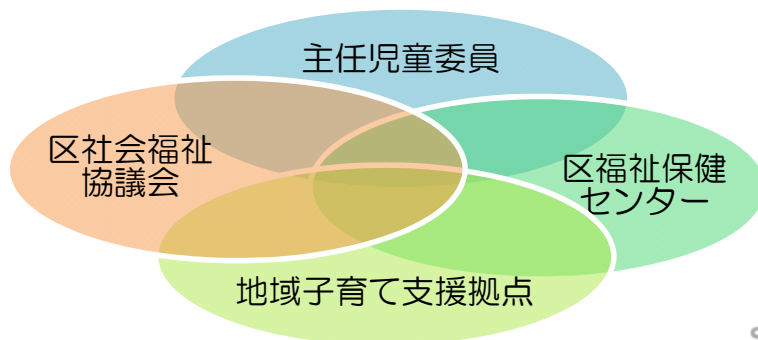
地域と一体となった児童虐待防止への取組が必要

➡ そこで、  
セーフコミュニティの虐待防止の取組の1つとして設置された  
「さかえっ子の笑顔ひろげ隊」事務局を分科会委員と位置づけた。

四者の協働で  
進めています！



図表14 さかえっ子の笑顔ひろげ隊



図表15 分科会の構成



# 児童虐待予防のための課題と対策

## 課題①

スライド3～6より

子育てに自信を持てず、不安を抱える母親が多い

## 対策①

地域への虐待防止啓発

## 取組①

さかえっ子の笑顔ひろげ隊

## 対策②

親への情報提供

## 取組②

こんにちは赤ちゃん訪問

## 課題②

スライド9～12より

児童虐待に至るリスクを抱えている養育者が存在している

## 対策③

関係機関の連携強化

## 取組③

栄区虐待防止連絡会

## 対策④

親への専門的支援

## 取組④

専門家による早期対応

図表16 課題と対策



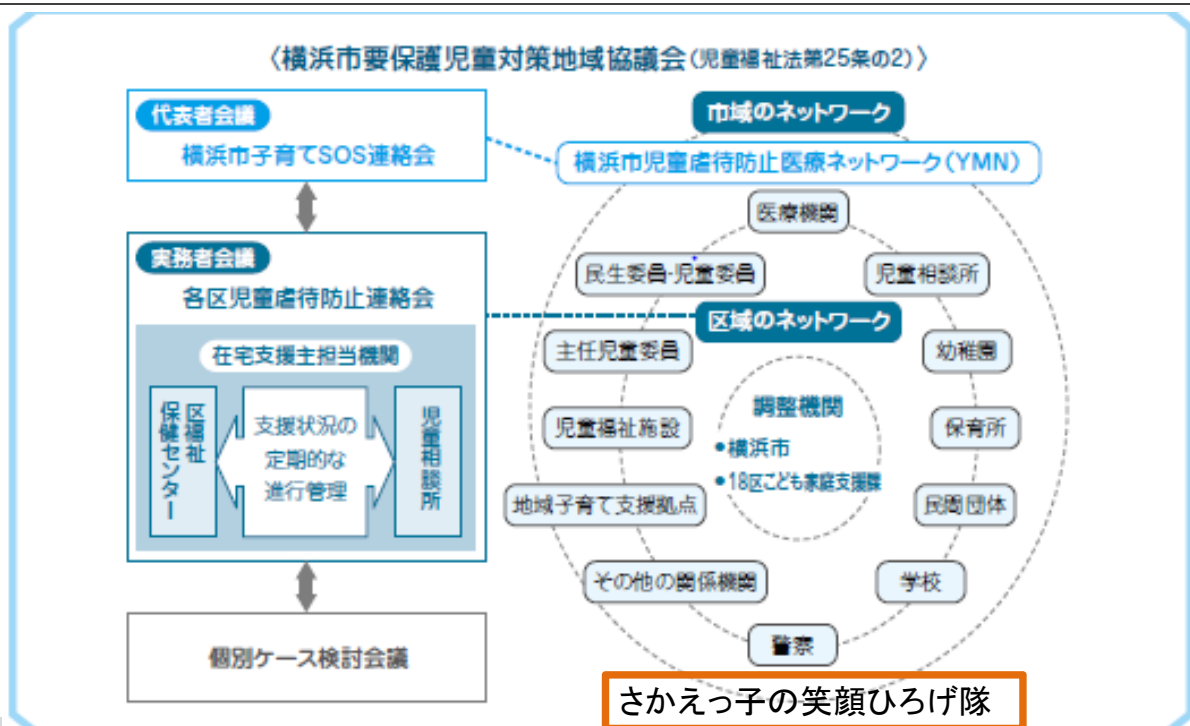
# 課題に対する取組の概要

		国レベル	県・市・区	地域レベル
課題① 子育てへの 自信のなさ 不安	環境改善	子育て世代包括支援センターの設置	横浜型子育て世代支援センターの設置	
	規則・罰則	母子保健法 健やか親子21 子ども子育て支援制度	横浜市子ども子育て支援制度	
	教育・啓発	子ども子育て支援制度	SC SC こんにちは赤ちゃん訪問事業 さかえっ子の笑顔ひろげ隊	
課題② 児童虐待の リスク	環境改善	児童相談所の運営	児童相談所の運営 区虐待対応調整チームの設置 SC 児童虐待防止連絡会の開催	
	規則・罰則	児童福祉法 児童虐待防止法	横浜市子供を虐待から守る条例	
	教育・啓発	技術的助言 児童虐待防止月間PR	児童虐待防止月間PR	SC 専門家による早期対応

図表17 課題に対する取組の概要

COMMUNITY

## 横浜市における児童虐待予防対策に関わる組織について



# 認証取得後からの重点取組の変遷

- 2014年の重点取組の追加時に、子育て応援講座をより身近な地域に出向いての見守りに変更。2016年の指標の見直し時に、専門機関と連携した児童虐待の取組や子育てに課題を抱えやすい家庭への早期支援のため、栄区虐待防止連絡会及び専門家による早期対応の取組を追加した

認証取得時	重点取組の追加 (2014年)	指標の見直し (2016年)
子育て応援講座の開催 (さかえっ子の笑顔ひろげ隊)	身近な地域に出向いての 見守り (さかえっ子の笑顔ひろげ隊)	身近な地域に出向いての 見守り (さかえっ子の笑顔ひろげ隊)
こんにちは赤ちゃん訪問	こんにちは赤ちゃん訪問	こんにちは赤ちゃん訪問
		栄区虐待防止連絡会
		専門家による早期対応

図表18 認証取得後からの重点取組の変遷

## 取組① さかえっ子の笑顔ひろげ隊

さかえっ子の笑顔ひろげ隊は、主任児童委員会、地域子育て拠点、区社会協議会、区役所などの集まりです。

子育て世帯を温かく見守る地域づくりを目指して①地域における児童虐待防止の啓発や見守りの啓発②子育ての相談先の周知③次世代（小中学生）が赤ちゃんと接する体験の場づくり④養育者に対する地域とのつながりをもつ大切さの周知を行っています。

児童虐待  
防止の啓発

子育て世帯  
の見守り

世代間交流  
イベント

乳幼児  
ふれあい  
体験

孫育て  
講座



図表19 乳幼児ふれあい体験① 図表20 乳幼児ふれあい体験②

図表21 リーフレット等

# 取組① さかえっ子の笑顔ひろげ隊

図表22 取組①の評価方法

短期的指標	中期的指標	長期的指標
<p>地域が見守りの大切さを理解する</p> <p>地域での様々な子育て支援の場での啓発活動の開催数、参加者数を計測</p>	<p>地域が自主的に見守り等の活動を行っている</p> <p>地域での見守り活動等を行っている場所の数を計測</p>	<p>地域に支えられていると感じる養育者の割合の増加</p> <p>子育てアンケートより計測</p>



## 取組① プログラムの評価（短期的指標）

□ 様々な取組により、年々確実に啓発活動の輪が広がっている

※ 2014年度までは子育て応援講座を開催して子育てに対する啓発活動を行ってきたが、啓発活動をより身近なものにするため、2015年度から身近な地域に出向いての啓発活動に変更

図表23 取組① プログラムの評価（短期的指標）

	2013	2014	2015	2016	2017
①子育て応援講座（～2014※）	開催数	1回	1回	—	—
	受講者数	262人	307人	—	—
	内容の理解度	97%	93%	—	—
②啓発活動対象人数（～2014※）	約3,000人	約4,000人	—	—	—
③身近な地域に出向いての見守りの啓発人数（さかえっ子の笑顔ひろげ隊の紹介、児童虐待防止啓発リーフレット、オレンジリボン等配布）	850人	750人	1,346人	1,703人	1,598人



## 取組① プログラムの評価（中期的指標）

- 身近な地域での子育ての見守り活動や各地域独自の取組は、啓発活動の実施によって今後増加していくことが見込まれる
- 見守り活動の場：地区での子育てサロン、ひろば等

図表24 取組① プログラムの評価（中期的指標）

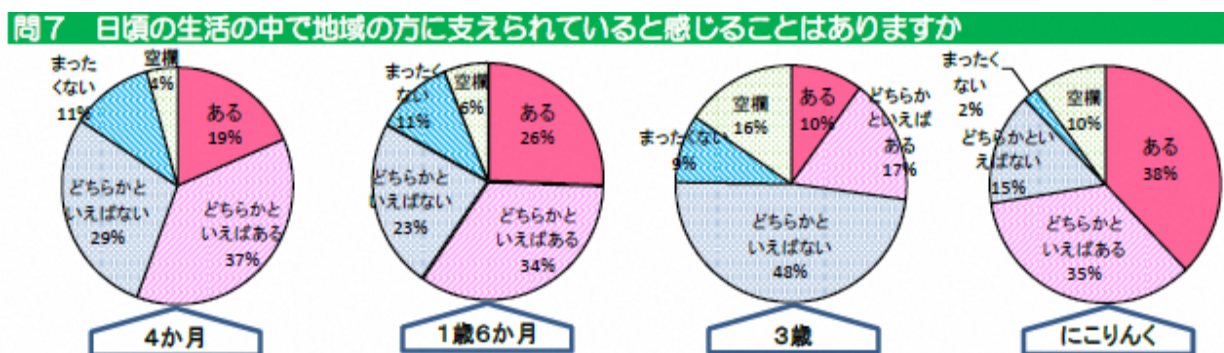
	2013	2014	2015	2016	2017
身近な地域で子育ての見守り活動ができる場所（2015～※）	—	—	11会場	18会場	18会場



## 取組① プログラムの評価（長期的指標）

- 子育てアンケートで「日常の生活のなかで、地域の方に支えられていると感じることはありますか？」に「はい」と答えた母親の割合は約50%

図表25 取組① プログラムの評価（長期的指標）



出典：さかえっ子の笑顔ひろげ隊 子育てアンケート（2016）



## 取組② こんにちは赤ちゃん訪問

民生委員児童委員や主任児童員等が産後1か月から全数の母子を訪問し、さまざまな子育て情報を届けることで、情報提供と併せて早期からの母子への見守りを行い、子育て中の養育者が地域とつながりを持つ機会とすることを目指しています。

- 全数の母子訪問を実施
- 訪問員は、主任児童委員、分科会メンバーなど23名の地域住民

### 訪問員全員が地域の役員

- 地域情報に精通している。
- 養育者と訪問後もつながりを持ちやすい。



図表26 民生委員児童委員・主任児童員等の集まり



図表27 栄区オリジナルファイル

こんにちは赤ちゃん訪問員が、様々な子育て情報をこのファイルに入れてお届けします！



## 取組② こんにちは赤ちゃん訪問

図表28 取組②の評価方法

### 短期的指標

出産後早期に育児支援の情報を入手している

こんにちは赤ちゃん訪問件数、訪問率を計測

### 中期的指標

気軽に相談、サービス利用をしている

- ①地域育児教室参加者数を計測
- ②地域子育て支援拠点利用数を計測

### 長期的指標

子育ての不安軽減

子育てアンケートより計測



## 取組② プログラムの評価（短期的指標）

- こんにちは赤ちゃん訪問の訪問率はほぼ横ばいであるが、母子健康手帳交付時の説明等により認知度を増やし、高い水準で推移している

図表29 取組② プログラムの評価（短期的指標）

	2013	2014	2015	2016	2017
こんにちは赤ちゃん訪問事業の訪問件数、訪問率	865件 88.6%	783件 88.4%	776件 87.7%	756件 91.5%	763件 95.7%



## 取組② プログラムの評価（中期的指標）

- 利用者数自体は減少傾向ではあるが、これは年々出生数が減少している影響のためであり、事業の周知により、地域育児教室の参加者や、地域子育て支援拠点の利用者数は概ね順調に推移している

図表30 取組② プログラムの評価（中期的指標）

	2013	2014	2015	2016	2017
①地域育児教室参加者数	1,827組	1,649組	1,522組	1,299組	1,306組
②地域子育て支援拠点 延べ利用者数	25,113人	24,051人	21,920人	21,448人	21,591人

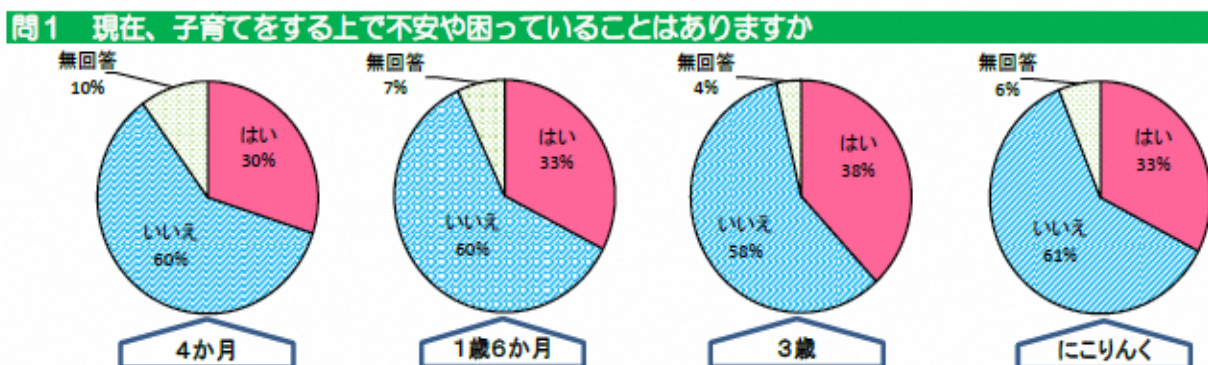




## 取組② プログラムの評価（長期的指標）

- 子育てアンケートで「現在、子育てをする上で不安や困っていることはありますか？」に「はい」と答えた母親の割合は約30%

図表31 取組② プログラムの評価（長期的指標）



出典：さかえっ子の笑顔ひろげ隊 子育てアンケート（2016）



## その他のプログラム

- 育児への不安等に関する知識、情報の提供等

図表32 その他のプログラムの取組実績

	2013	2014	2015	2016	2017
地域子育て支援拠点「にこりんく」による地域での子育て講座開催数、参加者数	7回 315人	7回 224人	8回 224人	16回 492人	21回 577人
SBS（乳児揺さぶられ症候群）予防の講座	両親教室 母親学級 地域育児教室 での周知	2013年度 ＋ 父子手帳への 掲載	2014年度 ＋ 子どもの事故 予防リーフ レットへの掲 載（※）	同左	同左
一時預かりサービス利用件数	3,550件	3,801件	3,271件	3,584件	3,512件



## 取組③ 栄区虐待防止連絡会

児童相談所、警察、医療機関、地域の役員の方々と連絡会実施  
さかえっ子の笑顔ひろげ隊（児童虐待予防対策分科会）メンバーも参加し、  
ひろげ隊の活動の周知、連絡会で抽出された現状や課題を活動に反映させて  
いる。



31

## 取組③ 栄区虐待防止連絡会

より身近な地域で関係機関が顔の見える関係づくりを行い、虐待防止に理解を深め、地域での見守り・子育て支援などに連携して取り組むため、2015年度から地区別虐待防止連絡会を開催しています。

2015年度 全7地区中2地区で開催（小菅ヶ谷地区、豊田地区）

2016年度 全7地区中1地区で開催（笠間地区）

2017年度 全7地区中7地区すべてで開催

### □ 主な機関・団体名

- ・民生委員児童委員、主任児童委員、地域ケアプラザ、子育て支援関係者  
自治会・町内会関係者、児童相談所、学校関係者、幼稚園・保育園関係者、

### □ 主な内容

- ・情報共有（児童虐待の現状、栄区の子育て支援、地区の子育て支援）
- ・情報交換 ・事例検討等

# 取組③ 栄区虐待防止連絡会

図表34 取組③の評価方法

短期的指標・中期的指標	長期的指標
虐待に至る可能性がある家庭が速やかに把握され、適切な支援やサービスにつながる	多様な関係者・関係機関からの支援が受けられている
①栄区児童虐待防止連絡会の開催回数を計測 ②地区別児童虐待防止連絡会の開催回数を計測	虐待事例の共有・検討数を計測



## 取組③ プログラムの評価（短期的・中期的指標）

- 栄区児童虐待防止連絡会（2012年に設置）  
関係機関のネットワークを継続していくため、毎年年度初めに開催する
- より身近な地域で関係機関が顔の見える関係づくりを行い、虐待防止に理解を深め、地域での見守りに繋げる

図表35 取組③ プログラムの評価（短期的指標・中期的指標）

	2013	2014	2015	2016	2017
①児童虐待防止連絡会開催回数	3回	2回	1回	1回	1回
②地区別児童虐待防止連絡会開催回数	—	—	2地区 ／全7地区中	1地区 ／全7地区中	7地区 ／全7地区中



## 取組③ プログラムの評価（長期的指標）

- 要保護児童対策協議会の個別ケース検討会議で地域の関係者も参加し、関係者間での情報共有、役割分担、見守りのポイントを共有をするための検討を虐待事例の共有、検討を行う

図表36 取組③ プログラムの評価（長期的指標）

	2013	2014	2015	2016	2017
地域関係者が参加した個別ケース検討会議数	—	—	6回	7回	13回
個別ケース検討会議開催数	—	—	57回	47回	35回



## 取組④ 専門家による早期対応

母子健康手帳交付時の看護職による面接、出生連絡票を基にした訪問などにより、専門家が子育て世代に早期から情報提供すると同時に、訪問時にEPDSを実施することで、支援の必要な養育者への早期対応・継続支援を実施しています。併せて、児童虐待防止連絡会の地区別開催や、個別ケース検討会議により、専門家と地域が連携してネットワークを構築し、児童虐待を防ぐ仕組みを作っています。

- 妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援
- 予防的支援とハイリスク支援

＜具体的な取組＞

- 母子健康手帳交付時には看護職による面接を実施
- 出生連絡票を基にした訪問時のEPDS（エジンバラ式産後うつ評価指標）実施
- EPDS高得点者や育児不安を抱える養育者に対する支援
- 児童虐待に対する早期対応、支援

図表37 横浜市の母子健康手帳



# 取組④ 専門家による早期対応

図表38 取組④の評価方法

短期的指標	中期的指標	長期的指標
<p>養育者が専門職の支援に早期につながっている</p> <hr/> <p>母子訪問の実施率、EPDS実施結果、乳幼児健診実施率等を計測</p>	<p>リスクを抱えた養育者が多様な機関のチームの連携に支えられている</p> <hr/> <p>個別ケース検討会議の実施件数、授乳相談、メンタルヘルス相談等の件数を計測</p>	<p>重篤な虐待や死亡に至らない</p> <hr/> <p>児童虐待対応件数、要保護児童数により計測</p>



## 取組④ プログラムの評価（短期的指標）

### □ 母子訪問や乳幼児健診の中で支援が必要な家庭の把握をしている

図表39 取組④ プログラムの評価（短期的指標）

	2013	2014	2015	2016	2017
①母子訪問指導員による第1子への訪問実施率	75.2% (352件)	80.3% (338件)	73.1% (331件)	86.4% (350件)	2018年5月末 集計予定
②EPDS実施結果	481件 うち支援の必要な方52人 (9.7%)	481件 うち支援の必要な方55人 (11.4%)	447件 うち支援の必要な方52人 (11.6%)	374件 うち支援の必要な方45人 (12.1%)	194件 うち支援の必要な方20人 (10.3%)
③乳幼児健診受診率	4か月：95.5% 1歳半：96.6% 3歳：98.1%	4か月：96.6% 1歳半：95.0% 3歳：96.5%	4か月：96.1% 1歳半：94.2% 3歳：94.0%	4か月：98.4% 1歳半：95.2% 3歳：97.1%	2018年5月末 集計予定
④未受診者の状況把握率	—	100%	100%	100%	100%

## 取組④ プログラムの評価（中期的指標）

- 関係機関が連携・協力して支援を行うために、ケースの見立て（アセスメント）を共有し、具体的な支援策を検討する個別ケース検討会議を開催している
- 授乳など育児に不安を持っている養育者に対する相談業務を実施している

図表40 取組④ プログラムの評価（中期的指標）

	2013	2014	2015	2016	2017
個別ケース検討会議開催数	—	—	57回	47回	35回
②周産期メンタルヘルス支援事業利用者数 (授乳相談、メンタルヘルス相談、育児スタート応援教室)	630人	623人	405人	452人	290人



## 取組④ プログラムの評価（長期的指標）

- 児童虐待の相談件数の増加に伴い対応件数は増加傾向にある。要保護児童数は、ほぼ横ばいの傾向となっている

これは、区役所が通告受理機関として区民や関係機関に周知されたことや、啓発活動により児童虐待への関心が高まり、虐待が疑われた早期の段階で相談・通告が入っているためと考えられる。今後も支援が必要な家庭を早期に把握し、対応していく必要がある

図表41 取組④ プログラムの評価（長期的指標）

	2013	2014	2015	2016	2017
児童虐待対応件数	12件	30件	23件	48件	59件
要保護児童数	93人	124人	95人	96人	2018年 5月末集計
児童虐待による死亡事例	0人	0人	0人	0人	0人

出典：横浜市こども青少年局（2016年度）



## セーフコミュニティ活動による気づきや変化

□セーフコミュニティ活動を通じ、虐待予防対策に関する理解が深まるとともに、地域の方の間で世代間交流や子育て支援の必要性が話し合われている。

⇒地域特性に応じた、子育て支援の取組や世代間交流等の取組が行われ始めている。

□要保護児童対策協議会の個別ケース検討会議を積み重ねることにより、検討ケース以外でも関係機関からの相談が増えた。

⇒区役所へ相談がつながりやすくなってきている。（早期発見・早期支援）

特に関係機関からの相談が増えてきている。

引き続き、連携を強化しつつ、身近な地域でも見守りを推進していく。

□地域での見守りが進みつつあるが、養育者がどのように感じているか、十分に把握できていない。

⇒子育て世帯に対するアンケート調査の実施。（現状と見守りの効果把握）



## 今後の方向性

### 1 養育者の子育てに対する不安の軽減

- 子育てに関する知識の付与
- 妊娠期からの親への準備教育
- 思春期世代への「赤ちゃんふれあい体験」の実施

### 2 児童虐待のリスクを抱える養育者の把握と支援の充実

- 関係機関の連携強化
- 多様な機関と連携した支援
- 専門家による適切な個別的支援

### 3 地域社会における子育て世帯の見守りの充実

- さかえっ子の笑顔ひろげ隊の活動の充実
- 地域と子育て世帯のつながりの強化



ご清聴ありがとうございました

